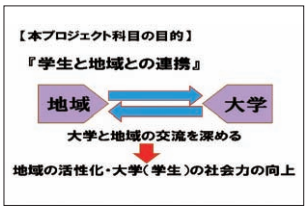
『スポーツイベント開催！』学生と地域の連携によるスポーツクラブ

春・秋連結学期 | 京田辺校地開講科目

1. 目的・概要

the purpose and an outline

本プロジェクト科目は「学生と地域の連携」をコンセプトにスポーツイベントの開催によって、大学と地域の交流を深め、地域の活性化と学生が成長することを目指しました。以下に実際に企画・開催したイベントの目的を記します。



Touch the New Sports

ニュースポーツを通じてスポーツの楽しさや大切さを知ってもらうとともに、親子の絆を深め、同志社大学を身近に感じてもらうことを主眼としています。

ブシドー☆キッズ'10

日本古来の武士道精神に触れ、武道というスポーツに出会い認識を深めるきっかけを作るとともに、武道での礼儀作法を学んでもらうことを主眼としています。

annual schedule

2010年	4月	本プロジェクト詳細把握
	5月	わが国のスポーツ政策の現状把握
		プロジェクトの関わるスポーツ振興
		イベント運営の学習・プレイベント企画構想
	6月	プレイベントに向けての準備
	7月	プレイベント「Touch the New Sports」開催
		春学期成果報告会の準備と発表
	10月	春学期プレイベントの振り返り
		秋学期「ブシドー☆キッズ'10」に向けての活動開始
	12月	メインイベント「ブシドー☆キッズ '10」開催
2011年	1月	「ブシドー☆キッズ '10」の振り返りとプロジェクトのまとめ
		成果報告会の準備と発表

スポーツイベント開催！学生と地域の連携によるスポーツクラブ

2. 成果達成度

the achievement degree

1 | Touch the New Sports

日　　時：平成22年7月3日（土） 13:00～15:00

対　　象：京田辺市立普賢寺小学校 1年生・2年生30人と保護者

成果達成度：かわらん、バードゴルフ、ヤカーリング、ソフトフリスビー、サッカーボーリング、エコロミットキャッチ、キンボールという7種目のニュースポーツを親子で体験してもらいました。リハーサルを綿密に行い、プログラムの進行が的確にできた為、無事故で本番を終えることができました。メンバーがプレイベントの目的の1つであるイベント開催に必要な知識を得ることができました。反省点としては、道具類の準備不足・各自の役割分担の認識不足などがありましたが、身体をたくさん動かすことにより親子ともに楽しそうな姿を見ることができ、メンバー全員が「ブシドー☆キッズ'10」に向けてさらに意欲を高めることができました。

2 | ブシドー☆キッズ'10

日　　時：平成22年12月19日（日） 9:30～15:00

対　　象：京田辺市、精華町を中心に京都府南部地域に在住する小学生160人

成果達成度：応募者は185人でしたが160人の申込者に限定。最終参加者は142人でした。イベントは活気にあふれ、とても盛り上がりました。当日は、午前中に武道系体育会8部による各部の演舞紹介（柔道、剣道、相撲、日本拳法、少林寺拳法、居合道、空手道、合気道）を行い、午後はこれらのうちの2種目を体験してもらいました。また、国際武道大会で活躍しているベルトレスリング日本代表選手（同大出身）による講演会ならびに体育会武道部によるクイズ大会を行いました。その結果、イベント終了後のアンケート調査では、今後子供に武道を習わせたいという親が多く（70%）、その理由として、日本古来の武道の礼儀や規律を学べた、などがありました。このことは、武道が礼儀・作法の習得に有効であるということを参加者のみなさんに認識してもらえたと思います。

今年も京都新聞に掲載され、ブシドー☆キッズの知名度も広がり、大学と地域の連携の大切さを多くの人に伝えるきっかけともなりました。さらには、京田辺市と精華町教育委員会より次年度以降も継続的にブシドー☆キッズ開催の要望が出たことは社会的意味合いの深いことを実感できました。本プロジェクトが地域の活性化に役立ち、プロジェクトを通じて学生は多くのことを学び相互にメリットがあるといえるので、本年度の目的は達成することができたのではないかと考えます。

3. プロジェクトを通じて

through a project

私たちはこのプロジェクトを通じて以下の3つの大切なことを学びました。

1 ｜ 計画の重要性

どんな物事にも綿密な計画が必要です。目標を掲げたイベントを企画し、開催するということであれば細かく計画を立てなければなりません。施設の申請や提出物、対象となる参加者への安全管理などメンバーそれぞれが責任をもって役割を果たすことのできる、計画の重要性を学びました。

2 ｜ 協力の大切さ

イベントを企画・開催するにあたって、メンバー同士が協力するということの大切さ、難しさを学びました。年齢や学部、趣味など個性もバラバラなメンバーなので目標が同じでも様々な意見があり、目標達成に向けても課題が多すぎてとても大変でした。しかし、授業時間外も協力して作業をすることにより、メンバーの仲間意識が高まりました。協力すれば、困難な課題も解決できていくことも学びました。

3 ｜ コミュニケーション能力の大切さ

メンバー全員と頻繁に連絡を取り合うことで各自の役割の進行状況を把握し合うことで、メンバー内での絆を深めることができました。外郭団体との交渉においても誠意を持ってマナーやルールを守り、コミュニケーションをとることで多くの支援者を得る事ができました。私たちが企画しているイベントを行うためには、上記にも述べたようにたくさんの人たちの協力が必要です。そのため私たちのコミュニケーション能力が大変重要であることを学びました。

このようにプロジェクト科目では、普段出会うことのない学生が同じ志を持って一人ひとりが役割を果たし、行動力を身に付けることができました。また、イベントを企画することの困難さと、準備の大切さ、チームワークの必要性を学びました。多くの方々の協力を得て開催できたイベント後の達成感など喜びも得る事ができました。起こりうる様々なハプニングの予測をし、またその対処法を考え、あるいは瞬時に物事を判断するといった判断力も磨かれたと思います。

[編集後記]

成果報告書を作成するにあたって、活動内容を文章化することにより、私たちは再びこのプロジェクトの意義をより深く理解することができました。普段の座学の授業では学べない、学生主体で企画・立案・運営することの難しさを知り、このプロジェクト科目で活動した有意義な経験を多くの人たちに伝えることが私たちの役目ではないかと思いました。

[プロジェクトメンバー]

秋道 理恵（文2）　潟山 愛（文2）　宮崎 健太（経済2）　中村 公輔（商2）　田中 拓哉（商2）　松沢 広平（工4）　江藤 諒輔（工4）
北野 絢嗣（生命医科3）　猪原 真樹子（スポーツ2）　松村 利子（スポーツ2）　新野 大樹（スポーツ2）　山際 茜（スポーツ2）
山下 勝也（スポーツ3）